1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）　平成　24　年度

事業所番号	2770103782		
法人名	社会福祉法人　関西福祉会		
事業所名	陵東館秀光苑		
所在地	大阪府堺市北区長曽根町1199－6		
自己評価作成日	平成　25年　1月　17日	評価結果市町村受理日	平成　25年　4月　5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2770103782-00&PrefCd=27&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会　福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1－54　大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成　25年　2月　22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

身体的には自立度が低い方が多くなり、自然と身体介助の場面が多くなります。そこで介助などでせかせかした雰囲気をつくらず、ゆったりとした暮らしを目指しています。合間を見つけて職員と一緒にお茶を楽しんだり、音楽を掛けるなどして雰囲気作りにも努めています。また自立度の低い方でも可能な範囲で洗い物をしたり、洗濯物をたたんだりして、介護を受けるだけの立場にならないようにしています。2ユニット制になってから落ち着かない日々もありましたが、現在では利用者同士で声を掛け合い、体調を気に掛けたりと、協力しあう場面も多くみられます。
利用者と職員だけの関係だけでなく、家族へもその都度近況を伝えたり、行事にお誘いするなど、家族との繋がりも大切にしたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地元で生まれ育った理事長が「誰もが、地域で暮らすことを大切にしたい」との想いを具現化し、障がい者支援施設から特別養護老人ホーム、保育園まで幅広い福祉サービスを展開してきました。グループホームも開設後10年が経過し、地域に開かれたホームとして機能しています。面会・談話室、多目的ホールなど、ハード面の豊かさを活かしながら日々の暮らしの場を提供しています。「あなたの笑顔が私たちの誇り」と職員自らが標語を作り、利用者目線で熱い思いを持ち、理念の実現に取り組んでいます。離職者が少なく、職員、利用者同士の関係が構築されています。利用者が来客者へお茶の接待ができるように環境を整え、見守る場面や利用者同士笑顔で会話する様子から、日々の暮らしぶりが窺えます。ホームが馴染みの場、楽しく暮らせる場となるよう、生活歴や利用者の思いを引き出し、情報収集しながら介護計画を立て、チームで取り組んでいます。利用者主体となるよう真摯に取り組む姿勢は、自己評価で課題として掲げている「外出」「馴染みの関係との継続」などへも今後前向きに取り組み、さらなる質の向上に繋がることが期待されるホームです。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	**○理念の共有と実践** 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。また、それを実践につなげることを意識して、関わることを職員全員で声を掛け合っている。	「地域の中で共に支え合い、地域とともに歩む」を理念に掲げ、「ゆったりした自由な暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分でできる喜びを感じる暮らし」「自分らしさや誇りをもった暮らし」を目指しています。また、職員で話し合い、「あなたの笑顔が私たちの誇り」と標語を決めて、これまで利用者が培ってきた生活を大切にしながら、利用者の笑顔を引き出すよう、理念にそったケアを実践しています。	
2	2	**○事業所と地域とのつきあい** 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域推進運営会議を通じて、自治会などのイベントに定期的に参加し、交流している。	法人は、地域の福祉の拠点として根差しており、ホームもボランティアの訪問、もちつき大会、祭りなど、地域行事に参加し、交流を深めてきました。以前は、地域の溝掃除にも利用者と共に参加していました。また、小学校や保育園からの訪問もあり、住み慣れた地域との繋がりを大切にしています。	
3		**○事業所の力を活かした地域貢献** 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	以前、介護者教室にて地域の方への認知症についての芝居などを行ったことなどはあるが近年はなく、今後、検討が必要である。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進運営会議にて状況報告は必ず行い、因難事例などがあれば、意見を求め、反映するようにしている。	運営推進会議は、規程・規約を作成し、2ヵ月に1回開催されています。利用者、家族、地域住民の代表者、民生委員、地域包括支援センター、知見者、事業所職員で構成しています。会議では、各ユニットの現状報告やホームでの行事、日常生活の様子をスライドで報告しています。また、会議を通して地域の行事の情報を得て参加する機会ができ、地域とのつながりが拡がっています。運営推進会議で出された意見は、職員会議で全職員に周知されています。	
5	4	**○市町村との連携** 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北区基幹型包括センター所長を地域推進運営会議に参加してもらい、事業所の実情など伝えている。	毎月、区のグループホーム連絡協議会に出席し、市や他の事業者と情報交換や連携を図りながら、サービスの質の向上に向けて交流を図っています。また、運営推進会議では毎回、地域包括支援センターの出席を仰ぎ、事業所の実情や取り組みを積極的に伝え、協力関係を築いています。事故が発生した場合には、速やかに報告する体制が整備されています。	

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束防止委員会を設置している。勉強会にて、事例をあげて意識の確認を行い、防止に努めている。	身体拘束について、利用者へのスピーチロックや言葉遣いなど事例を用いた具体的な研修を行い、職員に理解を深めています。日々のケアで気付いたことは、職員同士が注意を促すようにしています。日中、グループホーム入口は開錠していますが、現在、入居間もない利用者への対応のため、一時施錠しています。各フロアのエレベーターは自由に行き来できます。車いすや歩行器使用の利用者には、職員が付き添っています。転倒の問題から、ベッド柵などリスクと拘束については、家族の意識と異なる場合もありますが、利用者の立場から、ベッド柵での対応をするのではなく、センサーマットなどで対応する等、家族にも理解を求めています。	
7		**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内に高齢者虐待防止委員会を設置している。 委員会を中心に全職員が学ぶ機会として、勉強会で例を挙げて検討している。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や文献、法人からの情報などで学んでいる。また、機会があれば研修に参加し、職員間で周知できるようにしている。		
9		**○契約に関する説明と納得** 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、時間をかけて丁寧に説明をし、その後も面会時に不安な点はないかなど話しをする機会がつくれるよう、心掛けている。		
10	6	**○運営に関する利用者、家族等意見の反映** 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や思いを伝えられるよう、面会時、家族会、ケアプラン説明時等で常に問い掛けている。また、意見箱を設置し、直接は言いにくい事柄を集めて職員間で共有し、検討している。	3ヵ月に1回の「秀光苑たより」で、行事の様子や誕生会、食事会など、日常の生活の様子を紹介しています。また、運営推進会議への家族の参加や、年4回の家族会により、家族が意見や要望を出すことができる機会を設けています。家族と共に利用者を支援する姿勢で、家族との関係構築に努めています。	事業所独自で年に1回程度、家族アンケートを実施されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	**○運営に関する職員意見の反映** 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会で意見や提案を聞く機会を作っている。	会議では事前に資料等を配布することで、職員が意見や要望を出しやすいようにしています。新規利用者が入居する場合は、事前に利用者の情報を提供しています。職員の提案や意見については話し合いを行い、ケアに繋がるように取り組んでいます。数年間、職員の退職はほとんどない状況です。	
12		**○就業環境の整備** 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議の場において、勤務状態、給与水準の話しが議題としてあがることはある。職員側からの意見ややりがいについての話し合いがもたれ難く、今後の課題である。		
13		**○職員を育てる取り組み** 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での勉強会、認知症介護実践者研修をはじめ、常勤、非常勤を含めて研修を受ける機会をつくることで意欲向上に努めている。		
14		**○同業者との交流を通じた向上** 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流として、北区グループホーム協会での会合や勉強会などはあるが、相互訪問などは今後、必要と思われる。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		**○初期に築く本人との信頼関係** サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が暮らしの中で、不安な事や困っている事に耳を傾けるように寄り添いのケアを行っている。その上で、生活の中で自然と要望が聞ける雰囲気づくりに努めている。また、共有の時間を通して、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		**○初期に築く家族等との信頼関係** サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に情報収集をしながら、家族の要望や利用の際の疑問点などを含め、利用者自身の不安点や困っていることを聞いている。 家族の意向や希望を受け止める姿勢を大事にしている。		
17		**○初期対応の見極めと支援** サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に聞いていた意向、希望を含めて、今、必要な支援は何かということを随時、話し合っている。 その上で、ケアにつながる対応に努めている。		
18		**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らしているということを常に意識しながら、利用者から学ぼうとする謙虚な姿勢と敬う気持ちを大切にしている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		**○本人を共に支えあう家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人のケアを考えながら、時には職員と共にケアを実行してもらえるよう支援している。本人が安心して過ごせるよう家族との絆の大切さを意識しながら、共に本人を支えていける関係作りを築いている。		
20	8	**○馴染みの人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に開催している家族会に友人、知人も参加され、馴染みの関係を途切れないように関わりを大切にしている。	入居前からの友人の訪問や手紙を出すなど、馴染みの関係継続に向けた支援をしています。利用者の要望に応じて、携帯電話の使用についても家族と相談する等、利用者がホームに入ることで関係が途切れないよう支援しています。	
21		**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、利用者同士の関係の良い悪いを様子観察する中で把握する。その上で職員が利用者との中継ぎとなり、良いところはもっと良く、あまり相性が良くない利用者に対しては調整するように配慮している。		
22		**○関係を断ち切らない取り組み** サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された他ユニットの利用者の家業であるクリーニング店を引き続き利用し、関係を継続させている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活は、本人の希望、要望の上に成り立つものである事を常に意識し、思いが聴けるように関わり、把握に努めている。思いが表しにくかったり、意思疎通が困難な方に関しては、表情から汲み取ったり、家族を交えて本人の思いや意向を話し合う機会を設けている。	職員は日々のケアの中で、できるだけ利用者の思いを受けとめ、利用者本位のケアに繋がるように努めています。認知症に随伴する利用者の様々な言動・行動の要因を把握するために、生活歴や習慣を家族や関係機関から丁寧に聞き取り、対応方法をチームで検討するなど、その人の思いや意向に寄り添うように支援しています。	
24		**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族にフェイスシート（生活歴や既往歴を記すもの）を記入してもらい、情報収集に努めている。また、家族面会時にも詳しく話しを聞くようにしている。		
25		**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日々の過ごし方が、職員の間で情報共有できるようにケース記録を活用している。また、「したい事」「できること」の現状把握を職員同士で確認しあえるように随時、カンファレンスしている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	**○チームでつくる介護計画とモニタリング** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日々の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含めたモニタリング、カンファレンスを随時、行うようにしており、職員全体で本人が主体となった、より良く暮らすための課題とケアのあり方について検討している。	介護計画は、概ね6ヵ月毎に見直しをしています。毎月、職員で話し合いながら、介護計画の実践を評価しています。評価の結果、新たな課題があれば介護計画に反映しています。介護計画作成に際しては、職員側の視点にならないよう、利用者本位のケアに繋がるようにと利用者、家族とともに話し合いながら取り組んでいます。利用者の状況に応じて、情報収集のシートを工夫し、利用者把握に努めています。	
27		**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の考察・備考欄を活用することにより、介護計画の見直しや実践のヒントが得られるようにしている。 また、日々の変化の情報収集できる手段として、職員間で共有できるものとしても活用している。		
28		**○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化** 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院等の必要な支援には柔軟に対応している。医療連携体制を活かし、早期退院の支援、退院後の回復への支援、薬剤の検討、医療処置を受けながらの生活継続を行っている。特に歯科医は協力機関であり、本人や家族が納得できるまで治療、処置を行っている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		**○地域資源との協働** 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や校区の催しなどに参加している。ボランティアの受け入れや家族、友人、職員の家族が自由に出入りできる雰囲気を作り、様々なインフォーマルな資源を活用できるよう模索している。		
30	11	**○かかりつけ医の受診支援** 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設管理医師、看護師と連携を図り、必要に応じた医療機関へ受診している。また、家族の協力も得て、希望があれば以前より通院していた病院へ継続していけるように対応している。	受診する医療機関は、本人、家族の希望を優先しています。ホームの提携医療機関以外は、家族の対応を基本としています。家族が困難な場合は、職員が通院に同行することもあります。内科、整形、精神内科は往診医との連携があり、日常的な健康管理や緊急時の対応が整備されています。	
31		**○看護職との協働** 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、変化や気づきをすぐに看護師に伝え相談している。 それぞれの利用者が、適切な受診や看護を受けられるよう早期発見に努めている。また、使用する薬剤の作用、副作用の情報を把握し、より効果的に用いられるようにしている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		**○入退院時の医療機関との協働** 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病状のみならず、生活面を主としたサマリーを入院機関に提出し、本人の状態を伝えるよう努め、可能な限り面会に出向き、サマリーでは伝えきれない事業所での様子を伝えている。		
33	12	**○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援** 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の関わりの中から、本人及び家族の意向を早い段階から汲み取る。 事業所が対応しうる支援方法を示しながら家族、本人と話し合い、できるだけここでの生活が続けられるよう取り組んでいる。また、長い目で見た支援体制の整備やいざという時の対応を日頃から話し合い、職員間で方針を共有している。	入居時に、医療の必要性や重度化した場合には、医療機関や併設の特養を紹介することを伝えています。入居後も必要が生じた段階で家族に説明を行い、相談をしながら対応しています。併設に特養があることで、家族の安心に繋がっています。	
34		**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などで、職員は救命処置について講習を受けている。 また、応急手当や緊急時の対応についても話し合い、マニュアルも目の届くところに配置している。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者と共に避難訓練を行っている。校区の消防署にも参加してもらい、助言や確認をしてもらっている。 その都度、マニュアルに追記や訂正を加え、改善にも取り組んでいる。	グループホームは、2階から6階までが居住空間となっており、スプリンクラー、消火栓、排煙設備、防火扉、ベランダへの避難経路誘導板等の設備が整っていることで、利用者、家族の安心にも繋がっています。併設の特養とともに、2ヵ月に1回の防災訓練を実施し、年2回は消防署の指導を受けています。災害訓練では、布団を利用しての階段搬送、消火器の使用訓練を利用者も参加して実施しています。水や乾パンの備蓄も各階にあります。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	**○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保** 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることがないよう、言葉使いだけでなく声の大きさや表情にも注意する。また、常に意識して、互いに指摘し合えるような雰囲気づくりに努める。 個人情報やケース記録は厳重に保管し、知り得た情報を他で話すことが無いようにしている。	プライバシーや個人情報保護について、学習会を実施しています。特に学習会では具体的な事例をあげ、日常ケアに繋がるような工夫をしています。利用者を「ちゃん」付けで呼ぶことが良いかどうか、写真の掲載はどうかなど、利用者の思いを大切にしながら一人ひとりの現状に合わせた対応を心がけ、家族や第三者にはどのように映るのかなども話し合っています。	

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を尊重するとともに、自ら意思を表しにくい方からは、普段の会話や仕草、表情から汲み取るようにする。思いや希望をストレートに表す人、遠慮がちに表す人、後から伝えてくる人など個々に応じた自己決定の支援を行うように努めている。		
38		**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、消灯の時間は一応設けているが、本人の希望、体調、ペースに配慮しながら柔軟に対応している。 また、排泄も本人のリズムに合うように心掛けている。 外出や行事への参加も希望に沿うようにしている。		
39		**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて職員も服を選んでいる。 自身で選ぶことが困難な方でも、家族の方に依頼して、服を購入してもらったりしている。 また、訪問理容を活用し、定期的に散髪している。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや、食事の好き嫌いも配慮しながら、なるべく全員が美味しく食べる事のできるメニューを考えている。 食事一連の過程の中で、何らかの役割を持つように働きかけている。 畑から収穫した野菜で調理し、提供することで季節感を味わってもらっている。	朝食・昼食は併設施設の厨房から配送されます。利用者は、盛り付けや片付けを職員と一緒に行っています。利用者の重度化に伴い、調理も困難になってきましたが、夕食は届いた食材を、一緒に調理し、片付けなど、一人ひとりができる範囲で役割を担っています。地域の畑を借りて、トマトやキュウリ、サツマイモなどを収穫し、メニューに加えています。テーブルには箸立てやお茶を置いてあり、来客者には利用者がお茶を勧めるなど、日常の生活が継続できるような環境を整えています。食事量の記録とともに、水分量も必要に応じてチェックしています。	
41		**○栄養摂取や水分確保の支援** 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量は記録に残して、職員全員が把握できるようにしている。 一人ひとりの状態により、形状や調理法を工夫しており、摂取量の低下がみられた方に関しても、看護師を交えてのカンファレンスを行い支援している。		
42		**○口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じて歯磨き粉やブラシ、口腔ケアの声掛け、義歯の手入れを行っている。 必要に応じて、歯科受診も考慮する。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	**○排泄の自立支援** 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の生活リズムの自然な流れで、トイレでの排泄が可能になるように、利用者からのサインを見逃さないよう、排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。 また、紙パンツ、パット類も本人に合わせて、検討、見直しを行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、時間誘導を行い、ケース記録に残しています。利用者の状況を把握しながら、おむつの種類の変更やパッドの工夫により、使用量が少なくなった利用者もいます。夜間は安眠を重視し、室内でポータブルを使用する利用者もいます。	
44		**○便秘の予防と対応** 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に合わせ、ヨーグルトやオリゴ糖を摂取してもらっている。 また、体操を少しづつでも行えるようにしている。 看護師へ排便状況を伝え、内服のコントロールも行っている。		
45	17	**○入浴を楽しむことができる支援** 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望の際、その都度、その方に合わせえた湯温に調整している。 入浴剤なども利用し、ゆったり入ってもらえる工夫も行っている。 拒否する方も無理には誘わず、時間をあけて再度誘ってみたり、快く入った時は、どのような声掛けを行ったかなどを検討し、情報を共有できるよう努めている。	利用者の希望があれば、毎日でも入浴できます。以前は希望により夜間の対応もしていました。また、入浴剤やゆず風呂、菖蒲湯などの季節風呂など、入浴が楽しみになるような取り組みをしています。現在週2～3回の入浴となっていますが、回数が少ない場合は衛生面を考えながら清拭をしています。	

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		**○安眠や休息の支援** 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その都度、利用者の状態に合わせ、声を掛けて寝室に案内している。 空腹の訴えがある方には、温かい飲み物や汁物を提供している。 また、夜間は温度調節や騒音に配慮して、良眠できる環境作りにもつとめている。		
47		**○服薬支援** 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースファイルに服用している服薬の情報を添付しており、いつでも確認できる。必要に応じて、服薬介助や確認を行っている。 また、誤薬のないように薬を渡す際に声を出して、名前や時間帯、日付を読み上げ、確認を二重にしている。		
48		**○役割、楽しみごとの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「できることが、できる支援」を念頭に些細なことでも、利用者自身が自ら行う気持ちを大切にしている。 また、時には職員が誘って、一緒に取り組んでもらい、できる事への喜びを引き出せるよう努めている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	**○日常的な外出支援** 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の気分や希望、また目的や本人の状態に合わせて、外出を行っており、天気の良い日には玄関先まで行き、外気に触れる機会をつくっている。 また、ユニットで外出することで、共有できる喜び、楽しみを支援している。 地域の方には、校区での行事（花見や祭りなど）に招いてもらい、協力を頂いている。	地域の祭りや花見、初詣、外食など行事への取り組みを行っています。以前は、近隣の公園への散歩や食材の購入など、日常的に外出していましたが、利用者の重度化に伴い外出の機会が減っています。職員は、できるだけホーム内だけでなく、ボランティアや家族の協力を得ながら、利用者の楽しみに繋がるように外出の機会を増やしたいと考えています。	職員は、外出の機会が少なくなっていることを認識しています。ホームの構造上、玄関までの動線が複雑で、地域の人たちとふれあうことが難しい環境ですが、利用者の訴えがなくとも両ユニットで協力しながら、庭先に出て外気に触れ、地域との繋がりができるよう、日常的な取り組みが期待されます。
50		**○お金の所持や使うことの支援** 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理は職員が行っているが、小遣い払い出し伝票には、現金確認と受け取りサインをしてもらう事で、普段は意識しない「お金」というものの大切さを思い出してもらい機会としている。		
51		**○電話や手紙の支援** 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人と家族との電話は、なるべく希望時にできるように対応している。 今後、遠方の家族に対して、近況状況などを手紙でやり取りができるよう支援していきたい。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	**○居心地のよい共有空間づくり** 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場所という認識を踏まえ、食器棚に入っている食器も取り出しやすいようにポットの使用も安全面を配慮しながら、使い易い配置にしている。 緑や花、その季節に合った物を置くことで季節感を出すようにしている。 また、テレビや音楽の音も不快にならないように音量に注意している。	Ａ・Ｂユニットとも居室以外の異なる階に、居間・食堂・台所や談話室、喫茶コーナーなど、自由に過ごせる空間があります。各階には、エレベーターや階段で自由に行き来できます。ホーム内の数ヵ所に椅子やソファーが置いてあり、利用者同士ゆっくり過ごすことのできる場を提供しています。利用者が主に過ごす台所やリビングは、広く明るく、食器棚や台所用品を自然に置き、生活感あふれる家庭的で過ごしやすい空間となっています。対面式のキッチンにはポットや炊飯ジャーなどがあり、食事の時間には、調理の様子や音、においなどを感じることができます。また、随所に生花を活け、鉢植えを置く等、季節を感じることができます。食後、利用者と職員が一緒に歌を歌い、談話し、笑い声が響き楽しく過ごしています。	
53		**○共用空間における一人ひとりの居場所づくり** 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブルと椅子の他、ソファーを置いており、いつでもゆったりと過ごせるように配慮している。 肘掛け椅子の配置を検討したり、小テーブルを利用したり、一人ひとりの居場所が確保できるようにしている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	**○居心地よく過ごせる居室の配慮** 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた物を持ち込む事で、居心地よく過ごせるように配慮している。 また馴染みの物は何か、日々の関わりで本人や家族より聞くようにし、希望を言いにくい方には、殺風景にならないように職員が落ち着ける雰囲気作りに努めている。	居室には、電動ベッド、木製の机、洗面台が設置しています。家具や仏壇、テレビ、鉢植え、思い出の品など、使い慣れたものを自由に持ち込むことができます。畳の希望があれば、フローリングに敷くことも可能です。居室には、レクリエーションで作成した作品や写真を飾り、ぬいぐるみを持参している利用者もいます。利用者が安心して生活できるよう、家族と相談しながら部屋の設えを工夫しています。	
55		**○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり** 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りや声掛けにより、事故に配慮しながら、自由にエレベーターが使用できるようにしている。 苑内は必要に応じて手すりを設置しており、安全に過ごしてもらえるように努めている。 また、手すり付近へ障害となるものはないか常に確認している。		